

研究主題

国語科

叙述から正確に読み取る児童の育成

～授業 UD の視点を生かして～

目指す児童像

- ◎正確に読み、正確に書く児童
 - ・物事を多面的・多角的に吟味し見定めていく児童
 - ・多様な考えを認め、協働していく児童
- ◎情報から分析し、判断する児童
 - ・問題を発見し、粘り強く解決する児童
 - ・学習を見通し振り返る児童

研究の視点

「インプット3・アウトプット7」
の授業作り

学びに向かう人間性

知識・技能

思考力・判断力・表現力

既習事項の確認と共通認識

自分の考えを出すための個人作業

思考を深め整理するための全体共有

教材研究の共有化

「教材研究」「発問づくり」を中心に教材の解釈を見える形に残し、共有化。

発問・指示の明確化

全員の考えが出しやすくなるように Which型発問を取り入れるなど指示の工夫。

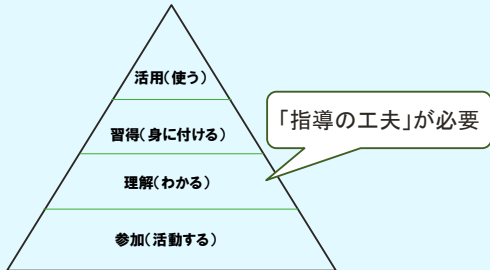
手だての焦点化

アウトプットしたくなる学習課題と効果的な対話ができる学習形態の工夫。

授業UDが目指すもの

特別な支援が必要な子を含めて、通常学級の
全員の子が、楽しく学び合い『**わかる・できる・探求**
する』ことを目指す授業デザイン

授業のUD化モデル



授業のユニバーサルデザイン研究会 <http://hwm@gyao.ne.jp/kokugouniversal/>

「指導の工夫」とは...

「**論理**」を授業の目標にした上で、授業を
 「**焦点化**」「**視覚化**」「**共有化**」
 するということ

- ◆ 問いと答え
- ◆ 事例の順序
- ◆ 頭括型・尾括型・双括型
- ◆ 事例とまとめの関係
- ◆ 中心文
- ◆ 筆者の主張
- ◆ 要旨と題名の関係
- ◆ 説明の工夫
- ◆ 事例の選択
- ◆ 筆者の意図
- ◆ 類比
- ◆ 対比
- ◆ 図、写真、
- ◆ 共感、納得、反論
- ◆ 抽象と具体

ほか

国語科における
 「論理」つながりとは

焦点化

授業のねらいや活動を絞ること

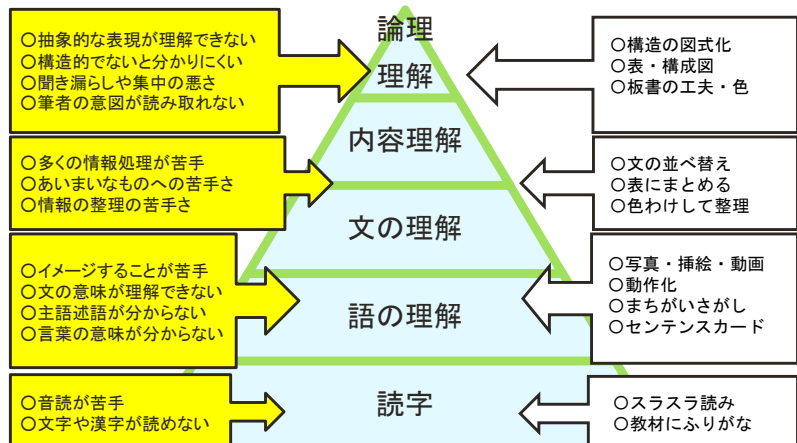
視覚化

視覚的な手がかりを効果的に活用すること

共有化

話し合い活動を組織化すること

つまずきへの対応

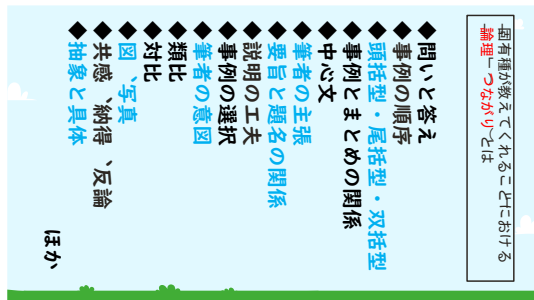


つまずき

工夫例

学習計画(論理)

- 第1時 筆者の主張を捉える。(題名・双括型・筆者の主張)
- 第2時 各段落の中心文を考え、全体構造を把握する。(中心文)
- 第3時 要旨をまとめる。(要旨と題名の関係・具体と抽象)
- 第4時 統計資料と文章の関係を捉える。(図、写真)
- 第5時 統計資料の価値・効果について話し合う。(筆者の意図)【本時】
- 第6時 関心のある環境問題を選び、統計資料を読み取る。
- 第7時 「初め」「中」「終わり」等の構成で書きたい内容を考える。
- 第8・9時 自分が考えた構成を基に、資料を活用して文章を書く。
- 第10時 文章を読み合い、よさを伝え合う。加除修正を行う。



手だて

【授業 UD】を使った全員参加・全員理解に向けての手だて

◇視覚化

- 全文シートに線を引くことで、中心文がすぐ分かるようにする。
- 全体構成を図解する。(教材のしかけ「図解する」)
- 統計資料と本文の関係を線で結びつける。

◇焦点化

- 「初め」と「終わり」に限定して比較し、筆者の主張を捉える。(教材のしかけ「限定する」)
- 要旨をまとめる際に、「中」を削った上で必要な部分を書き抜く。(教材のしかけ「限定する」)
- 提示する資料を限定することで、資料の効果を考える。(教材のしかけ「限定する」)

◇共有化

- ペアやグループでの交流を行う。
- 要旨をまとめる際に、友達の書いている分を読む時間を設ける。

授業 UD の具体的場面 授業の様子

- ★大事な資料ベスト3を選ぶと限定することにより、全員が大事な資料を選ぶことができた。ロイロノートの表に選んだ資料を貼ることは、視覚的に理解を助けていた。
- ★ベスト1に選んだ資料のところに、ネームプレートを貼ることで、誰がどんな資料を選んでいるかが分かり、共有することができた。



授業改善の視点

- ◎大事な資料ベスト3を選ぶことによって、資料の役割に気付くことができた。
- ◆資料がもたらす効果について、筆者・読み手両方からの立場から考えるとよかった。

(単元名 中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう。)

学習計画(論理)

- 第1時 単元への興味関心をもち、本文の概要を把握する。(定義づけ)
- 第2時 筆者の主張と、文章全体の構成を捉える。(筆者の主張・双括型)
- 第3時 各段落の中心となる語や文を見付ける。(中心文と要約)【本時】
- 第4時 見付けた中心文から文章を要約する。(中心文と要約)
- 第5時 本文を読んで考えたことを自分の言葉で表現する。
- 第6時 説明文の学びを振り返り、書く活動の見通しをもつ。自分のテーマを決める。
- 第7・8時 自分が決めたテーマについて調べ、分かったこと、考えたことを整理する。
- 第9・10時 自分が決めたテーマについて、学んだことを生かしてリーフレットにまとめる。
- 第11・12時 リーフレットを友達と交流する。単元の振り返りをする。

未来につなぐ工芸品における
論理(みりよく)

- ◆問いと答え
- ◆事例の順序
- ◆頭括型・尾括型・双括型
- ◆事例とまとめの関係
- ◆中心文
- ◆筆者の主張
- ◆要旨と題名の関係
- ◆説明の工夫
- ◆事例の選択
- ◆筆者の意図
- ◆類比
- ◆対比
- ◆図、写真
- ◆共感、納得、反論
- ◆抽象と具体

ほか

手だて

【授業 UD】を使った全員参加・全員理解に向けての手だて

- ◇視覚化
 - 選択肢をつくることで、考えるポイントを絞りやすくする。
 - 中心となる語や文の重要度を考えさせることによって、思考を整理しやすくする。
- ◇焦点化
 - ロイロノートで配布した全文シートに初め・中・終わりに線を引いて分けさせたり、中心となる語や文にマーカーで印をつけさせたりすることで、視覚的に内容を捉えやすくする。
- ◇共有化
 - 作業が終わった児童同士など少人数で話し合う時間を多くとることによって、自分の意見の形成や考えが深まることができるようにする。
 - ロイロノートの共有機能を活用し、友達の意見を確認できるようにする。

授業 UD の具体的場面 授業の様子

- ★ロイロノートのテスト機能のゲームモードを活用し、意欲的に学習を振り返らせた。
- ★ロイロノートで配布した全文シートに中心となる語や文にマーカーで印をつけた。
- ★1段落目について、中心の語や文となる場所に選択肢をつくり、やり方を確認した。また、2段落以降も手が止まってしまった人へのみロイロノート上で配布した。
(しかけ: 選択肢をつくる)
- ★ロイロノートの共有ノートを活用し、友達の意見を視覚的に見ながら聞けるようにした。また、友達の意見を聞く際に、いつでも比較できるようにした。



成果と課題

- ◎ICT を活用することで、意欲的に活動を促したり、視覚的に確認したりできた。
- ◆段落の中心文を発表させるために担当を決めてしまったため、段落相互の関係が見づらくなってしまった。
- ◆導入で確認した筆者の主張を根拠に中心文を見付けられるようにもう少し意識づける必要があった。

実践事例③

第2学年 教材名「ロボット」

(単元名 だいじなことばに気をつけて読み、分かったことを知らせよう)

◆問いと答え
◆事例の順序
◆頭括型・尾括型・双括型
◆事例とまとめの関係
◆中心文
◆筆者の主張
◆要旨と題名の関係
◆説明の工夫
◆事例の選択
◆筆者の意図
◆類比
◆対比
◆図・写真
◆図・写真
◆井筒・納得
◆抽象と具体
ほか

学習計画(論理)

- 第1時 題名からロボットについてイメージを膨らませる。(題名)
教材文を読み、興味を持ったロボットについて交流する。
- 第2時 全文シートを読み、文章構成「初め」「中」「終わり」を捉える。
- 第3時 第1段落を読んで、ロボットについて、どんなことを説明しているのかを確かめる。(問いと答え)
- 第4・5時 問いの文とその答えの言葉を見付けて、大事な言葉を書き出す。(問いと答え)
- 第6時 三つのロボットの説明を比べて分かりやすい説明の仕方について考える。(説明の工夫)
- 第7時 三つの事例を比較して、説明の順序を再検討する。筆者の説明の工夫を推測する。(説明の工夫)【本時】
- 第8時 これからどんなロボットがあったらいいかを考える。
- 第9時 ロボットについて書かれた本を読む。
- 第10時 あったらよと思ったロボットを選び、内容・利点に着目し、メモを書く。
- 第11時 ロボット紹介カードを作成する。
- 第12時 作成したカードを使って、あたらよと思うロボットを友達と紹介し合う。

手だて

【授業UD】を使った全員参加・全員理解に向けての手だて

- ◇視覚化
 - 全文シートを使い、文章構成(「初め」「中」「終わり」)を捉えやすくする。(分類する)
 - 動画を活用し、ロボットの機能についての理解を深める。
- ◇焦点化
 - 教材のしかけを授業に取り入れる。
 - 「問い」についての「答え」を見付けながら読むことに限定し、文章中の大事な語や文を捉える。(限定する)
 - 内容(どんなものか?)、利点(役立つのか?)に着目し、書く。(限定する)
 - クイズで前時を振り返り、本時の素地につなげる。(隠す)
- ◇共有化
 - 考えを、確かめる際はペアで、交流する際はグループで話し合い活動を行う。
 - 紹介したいロボットをロボット紹介カードにまとめ、友達と紹介し合う。

授業UDの具体的場面 授業の様子

- ★ロイノートのテスト機能のゲームモードを活用し、学習の振り返りを行った。
- ★全文シートを使い、文章構成(初め、中、終わり)を捉えやすくし、学習活動を促した。
- ★考えを確かめる際はペア活動、交流する際はグループ活動とするなど、活動内容に応じて共有方法を工夫した。今回はペア活動から全体活動へとつなげた。
- ★ネームプレートを貼ることで、誰がどの順番の考えを選んでいるのかを可視化した。



成果と課題

- ◎自分の考えの根拠に前時までの学習を活かすことができた。
- ◆事例の順序には、筆者の意図があるということ気付かせる手立てがもっと必要だった。

今年度の成果と課題

- ◎研究授業と協議会、講師からの指導をもとに、説明的な文章を扱う単元で、論理を授業の中心として、焦点化、視覚化、共有化の具体的な手立てを取り入れて授業を組み立て、実践することができた。年間を通して各クラスの担任が国語の授業でどの論理を取り入れるかを考え、実践を行った。多くの児童が意欲的に参加し、深く考える姿を目の当たりにすることができ、その有用性を実感することができた。
- ◎授業 UD を取り入れることで、教員にとっても単元全体の指導内容が明確になり、より分かりやすい授業作りに繋げることができた。
- ◆教材に適したしかけを、教員が授業作りの中で検討し、児童が課題を探求できるように工夫する必要がある。
- ◆説明的な文章で、3つのレベルの読む力(確認読み、解釈読み、評価読み)をどこで行うかを検討し、児童がより深く文章を理解できる授業づくりに取り組む必要がある。

【ご指導いただいた先生】

師範授業・研究授業講師

武蔵野市立第一小学校 主任教諭

先生